

日本学術会議第170回総会資料

(第23期 第3回)

平成27年10月 1日(木)

10月 2日(金)

10月 3日(土)

日 本 学 術 会 議

一 般 的 注 意 事 項

1 出席のサインについて

総会に出席される方は、受付で出席のサインをお願いします。

2 旅費の支給について

旅費請求書を配付いたしますので、押印してください。

3 発言する場合

発言を要求する際には挙手をし、議長から指名された後に、最寄りのマイクを通して所属部、氏名を言ってから発言してください。

4 委員会開催の周知について

休憩時等に委員会を開催する場合は、エレベーターわきの電光掲示板にてお知らせいたします。

5 その他

配付資料については、総会散会后回収させていただく資料2を除き、お持ち帰りいただきますようお願いいたします。

なお、不要な資料は席上にお残してください。

第 1 7 0 回総会日程

— 第 2 3 期第 3 回 —

第 1 日程表

	10:00	12:00	13:30	15:00	16:30
1 0 月 1 日 (木)	総会 ・ 提案説明、採決 【非公開】 ・ 会長活動報告 ・ 各副会長活動報告 ・ 審議経過報告① * 脱タバコ社会の実現 分科会 ・ 年次報告書報告	昼休み	総会 ・ 特別講演①（春日 文子先生） ・ 自由討議	部会	幹事会
	10:00	12:00	13:30	16:00	
1 0 月 2 日 (金)	部会	昼休み	総会 ・ 審議経過報告② * 若手アカデミー ・ 特別講演②（寺崎浩子先生） ・ 各部活動報告 ・ 特別講演③（内山田竹志先生）		
	10:00				
1 0 月 3 日 (土)	各種委員会等				

(総会中の日程は、審議の状況により変更される場合があります。)

第 2 会場

総 会……講 堂

その他委員会等……当日掲示板等で通知

報	1
総 会	170

日 本 学 術 会 議 活 動 状 況 報 告

平成 27 年 10 月 1 日

前回（第 169 回）総会以降の活動状況報告

第 1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4 月 10 日（金）	総合科学技術・イノベーション会議本会議	大西会長
4 月 16 日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
4 月 16 日（木）	総合科学技術・イノベーション会議 第 6 回基本 計画専門調査会	大西会長
4 月 21 日（火）	国際光年記念シンポジウム(東京大学)	大西会長
4 月 23 日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
4 月 23 日（木）	総合科学技術・イノベーション会議 第 7 回基本 計画専門調査会	大西会長
4 月 23 日（木）	2015 年（第 31 回）日本国際賞授賞式(東京国際フ ォーラム)・祝宴(パレスホテル東京)	大西会長（祝宴のみ）、 花木副会長
4 月 26 日（日） ～27 日（月）	北極科学サミット週間 2015（富山国際会議場）	大西会長
4 月 27 日（月） ～5 月 2 日（土）	G7 アウトリーチカンファレンス（ドイツ・ベルリ ン）	花木副会長
5 月 7 日（木）	G サイエンス学術会議共同声明の総理手交	大西会長、花木副会長
5 月 10 日（日） ～13 日（水）	ICSU「都市環境の変化と健康」科学委員会（フラ ンス・パリ）	花木副会長
5 月 14 日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
5 月 14 日（木）	総合科学技術・イノベーション会議 第 8 回基本 計画専門調査会	大西会長

5月14日(木)	第12回アジア栄養学会議(パシフィコ横浜)	井野瀬副会長
5月14日(木) ～18日(月)	第15回アジア学術会議年次会合(カンボジア・シエムリアップ)	大西会長 花木副会長
5月21日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
6月2日(火) ～7日(日)	世界科学フォーラム(WSF) ステアリングコミュ ッティー(ハンガリー・ブダペスト)	花木副会長
6月11日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
6月15日(月)	ヨルダン国王即位16周年及び第69回独立記念レ セプション(ホテルオークラ アスコットホール)	大西会長
6月21日(日)	国際新興・再興豚病学会(京都国際会館)	花木副会長
6月25日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
6月25日(木)	公開シンポジウム「社会の安全目標とリスク・ア プローチの役割」(東京大学山上会館)	大西会長
6月26日(金)	日本経済団体連合会と日本学術会議の意見交換 会(経団連会館)	大西会長、向井副会 長、花木副会長
6月28日(月)	環太平洋大学協会(APRU)第19回年次学長会議(ヒ ルトン大阪)	大西会長
7月2日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
7月9日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
7月9日(木)	国際連合大学卒業式(国際連合大学)	大西会長
7月16日(木)	公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム 2015」(日本学術会議講堂)	大西会長
7月16日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
7月17日(金)	日本学術会議中部地区会議主催学術講演会(富山 大学五福キャンパス)	大西会長
7月23日(木)	幹事会声明「これからの大学のあり方ー特に教員 養成・人文社会科学系のあり方ーに関する議論に 寄せて」公表に関する記者レク	大西会長 井野瀬副会長
7月26日(日) ～27日(月)	国際第四紀学連合第19回大会(名古屋国際会議 場)	大西会長
7月30日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長

7月31日（金）	公開シンポジウム「人文・社会科学と大学のゆくえ」（日本学術会議講堂）	井野瀬副会長
8月1日（土）	公開シンポジウム「歴史教育の明日を探る」（日本学術会議講堂）	井野瀬副会長
8月3日（月）	第17回世界経済史会議（京都国際会館）	井野瀬副会長
8月3日（月）	第9回国際中欧・東欧研究協議会世界大会（幕張メッセ）	花木副会長
8月4日（火） ～5日（水）	第二部夏季部会（北海道大学）	大西会長 向井副会長
8月6日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
8月10日（月） ～11日（火）	第一部夏季部会（福島市A O Z）	大西会長、井野瀬副会長
8月15日（土）	全国戦没者追悼式	大西会長
8月20日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
8月26日（水） ～27日（木）	第三部夏季部会（高知工科大学）	大西会長、花木副会長
8月30日（日）	公開シンポジウム「人口減少下における地方の創生策はいかにあるべきか—東京一極集中是正の可能性—」（日本学術会議講堂）	大西会長
9月4日（金）	日独シンポジウム「ダイバーシティが創る卓越性～学術界における女性・若手研究者の進出～」(日本学術会議講堂)	向井副会長
9月8日（火）	日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会（九州大学伊都キャンパス）	向井副会長
9月10日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
9月15日（火） ～16日（水）	公開シンポジウム「日仏シンポジウム：スマートシティー」（日本学術会議講堂）、スマートシティーレセプション（フランス大使公邸）	大西会長 花木副会長
9月17日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
9月18日（金）	第11回総合科学技術・イノベーション会議	大西会長
9月24日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長

9月24日(木)	公開ワークショップ Future Earth 推進のための 教育と人材育成：Co-Design/Co-production をど う実践するか	花木副会長
9月27日(日) ～28日(月)	IAP 執行委員会・IAC 理事会（インド・ニューデ リー）	花木副会長
9月30日(水～ 10月4日(日)	第19回 ICSU/CFRS 会合	井野瀬副会長

第2 会長談話

次の会長談話を公表した。

- 1 「ネパール科学技術アカデミーへのお見舞い」

(平成27年5月8日公表)

- 2 「塚田裕三元会長に対する弔意」

(平成27年5月15日公表)

第3 提言等の承認

○提言

- 1 高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会

提言「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言－国民的合意形成に向けた暫定保管」

(平成27年4月24日公表)

- 2 環境学委員会 都市と自然と環境分科会委員会

提言「神宮外苑の環境と新国立競技場の調和と向上に関する提言」

(平成27年4月24日公表)

- 3 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会

提言「東京都受動喫煙防止条例の制定を求める緊急提言」

(平成27年5月20日公表)

- 4 哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会

提言「未来を見すえた高校公民科倫理教育の創生－考える「倫理」の実現に向けて－」

(平成27年5月28日公表)

- 5 科学者委員会 男女共同参画分科会

提言「科学者コミュニティにおける女性の参画を拡大する方策」

(平成27年8月6日公表)

○報告

1 社会学委員会 社会福祉学分野の参照基準検討分科会

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準:社会福祉学分野」

(平成27年6月19日公表)

2 電気電子工学委員会 電気電子工学分野の参照基準検討分科会

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準:電気電子工学分野」

(平成27年7月29日公表)

第4 幹事会声明

次の幹事会声明を公表した。

- 1 「これからの大学のあり方ー特に教員養成・人文社会科学系のあり方ーに関する議論に寄せて」

(平成27年7月23日公表)

第5 日本学術会議主催学術フォーラム

- 1 日本学術会議主催学術フォーラム「われわれはどこに住めばよいのか?～地図を作り、読み、災害から身を守る～」を平成27年6月20日(土)に日本学術会議講堂にて開催した。

- 2 日本学術会議主催学術フォーラム「アジアのメガシティ東京 その現状と日本の役割」を平成27年7月11日(土)に日本学術会議講堂にて開催した。

- 3 日本学術会議主催学術フォーラム「情報システムの利活用による農業の産業競争力向上」を平成27年9月10日(木)に宮崎県にて開催した。

第6 国際会議の開催

- 1 「北極科学サミット週間 2015」を平成27年4月23日(木)～4月30日(木)に富山県にて開催した。

- 2 「第12回アジア栄養学会議」を平成27年5月14日（木）～5月18日（月）に神奈川県にて開催した。
- 3 「第7回国際新興・再興豚病学会」を平成27年6月21日（日）～6月24日（水）に京都府にて開催した。
- 4 「国際第四紀学連合第19回大会」を平成27年7月26日（日）～8月2日（日）に愛知県にて開催した。
- 5 「第17回世界経済史会議」を平成27年8月3日（月）～8月7日（金）に京都府にて開催した。
- 6 「第9回国際中欧・東欧研究協議会世界大会」を平成27年8月3日（月）～8月8日（土）に千葉県にて開催した。
- 7 「クォークマター2015：第25回相対論的原子核衝突国際会議」を平成27年9月27日（日）～10月3日（土）に兵庫県にて開催している。

第7 日本学術会議地区会議

- 1 日本学術会議中部地区会議主催学術講演会「日本海地域の未来」を平成27年7月17日（金）に富山県にて開催した。
- 2 日本学術会議第二部・北海道地区会議主催学術講演会「感染症との闘い」を平成27年8月5日（水）に北海道にて開催した。
- 3 日本学術会議第三部・中国・四国地区会議主催学術講演会「市民に向けた巨大津波の最先端科学と正しい防災知識」を平成27年8月26日（水）に高知県にて開催した。
- 4 日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会「水素元年—新しいエネルギー社会の構築に向けて—」を平成27年9月8日（火）に福岡県にて開催した。

第8 会員の退職

大島伸一会員が、平成27年9月6日付けで定年退職した。

第9 慶弔等

1 慶事

平成27年春の叙勲受章者 4月29日公表

【瑞宝重光章】

西永 頌（元連携会員（第20-21期））

松尾 友矩（元連携会員（第20-21期））

松野 隆一（元会員（第16期））

【瑞宝中綬章】

飯吉 厚夫（元連携会員（第20-21期））

池上 詢（元会員（第17-18期））

石原 潤（元会員（第19期））

伊藤 進（元会員（第18-19期））

上野川修一（元連携会員（第20-21期））

竜田 邦明（元連携会員（第21-22期））

辻井 博彦（元連携会員（第20-21期））

橋本 健治（元会員（第17期））

藤井 光昭（元会員（第16期））

堀内 博（元会員（第17-19期））

松澤 佑次（元会員（第20期））

松田 芳郎（元会員（第18-19期））

村上陽一郎（元連携会員（第20期））

平成27年春の褒章受章者 4月28日公表

【紫綬褒章】

米田 悦啓（連携会員（第20, 21-22, 23-24期））

2 ご逝去

田中 則夫（たなか のりお） 平成26年11月12日 享年65歳
連携会員（第22-23期） 龍谷大学法科大学院教授

松田 藤四郎（まつだ とうしろう） 平成27年3月22日 享年83歳
元会員（第16～18期）、元東京農業大学学長、元東京情報大学学長

天野 正子（あまの まさこ） 平成27年5月1日 享年77歳
元連携会員（第20-21期） お茶の水女子大学名誉教授

松下 圭一（まつした けいいち） 平成27年5月6日 享年85歳
元会員（第13期） 法政大学名誉教授

松尾 稔（まつお みのる） 平成27年5月9日 享年78歳
元会員（第15～17期） 元名古屋大学総長

塚田 裕三（つかだ やすぞう） 平成27年5月14日 享年92歳
元会員（第9, 11～12期）、元会長（第12期）、慶應義塾大学名誉教授

三宅 なほみ（みやけ なおみ） 平成27年5月29日 享年65歳
連携会員（第21-22, 23-24期） 東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構副機
構長

南部 陽一郎（なんぶ よういちろう） 平成27年7月5日 享年94歳
栄誉会員 シカゴ大学名誉教授、大阪市立大学名誉教授、立命館アジア太平洋大学ア
カデミック・アドバイザー

青木 昌彦（あおき まさひこ） 平成27年7月15日 享年77歳
元連携会員（第20-21期） スタンフォード大学名誉教授

笠木 伸英（かさぎ のぶひで） 平成27年7月29日 享年68歳

連携会員（第22-23期）、元会員（第20-21期） 国立研究開発法人科学技術振興機構
研究開発戦略センター上席フェロー

阿部 美紀子（あべ みきこ） 平成27年8月14日 享年67歳
連携会員（第23-24期） 鹿児島大学名誉教授

塩野谷 祐一（しおのや ゆういち） 平成27年8月25日 享年83歳
元連携会員（第20-21期）、元会員（第18期） 一橋大学名誉教授・元学長

第10 その他

事務局人事異動

事務局次長

旧：山田 淳

新：千葉 明

（平成27年4月13日付）

事務局長

旧：田口 和也

新：駒形 健一

（平成27年7月31日付）

参事官（審議第2担当）

旧：盛田 謙二

（平成27年8月3日付）

新：石井 康彦

（平成27年8月4日付）

参事官（国際業務担当）

旧：佐藤 正一

新：鈴木 孝介

（平成27年8月18日付）

報	2
総 会	170

2015年4月～9月 活動報告



第170回総会 2015年10月1日(木)

日本学術会議会長

大西隆

23期を通じて実現すべきこと

■責任ある助言者としての日本学術会議

- 人文社会科学のあり方についての幹事会声明

■学術活動の一層の発展方向、新たな必要領域を積極的に示す日本学術会議

- 学術の大型研究計画、FE等、科学研究の新たな領域を提示
- 国立大学をはじめとする研究組織のあり方、健全な研究推進について方向提示し推進

■信頼される国際的なパートナーとしての日本学術会議

- Gサイエンス2016
- STSフォーラムへの参加、WSFへの参加

次の半年に取り組む課題(4月総会)

1. 防災・減災 東日本大震災からの復興への取組、東京会議・仙台会議を経て、学術の観点から防災減災に積極的に取り組む
2. 科学技術政策の方向・転換期における学術の拠点としての大学・国立大学のあり方
3. 科学研究の健全性、科学者の倫理
4. 政府・産業界・メディア・市民団体等との連携
5. 若手アカデミーの自律的な活動促進
6. 報告書「日本学術会議の今後の展望について」を受けて、諸改革を進める
7. 国際活動の推進

2. 科学技術政策の方向・転換期における学術の拠点としての大学・国立大学のあり方

第5期科学技術基本計画、国立大学法人第3期中期目標・中期計画を決めていく重要な時期

- 文部科学大臣通知(2015年6月8日) 教員養成系、人文社会科学系をどう考えるのか？
 - 7月23日 幹事会声明
 - 種々の議論
 - 9月18日 文部科学省高等教育局「新時代を見据えた国立大学改革」…文系の廃止を意味しない、との見解。
 - 海外メディアの反響と、それを踏まえた考察。実践重視で、生産性の低い分野への回帰を危惧
- 国大協 「国立大学の将来ビジョン」・同アクションプラン
- 国立大学、研究資金に関する委員会等を通じて、人材育成・科学研究の拠点としての大学の役割、政府の支援のあり方について提言すべく議論重ねる

1. 防災・減災 東日本大震災からの復興への取組、東京会議・仙台会議

- 汚染水、再生可能エネルギー、福島県民健康管理等をはじめとするテーマで、審議。高レベル放射性廃棄物で提言公表
- 特に福島復興を焦点に活動継続
 - 福島12市町村の将来像に関する有識者検討会 提言
 - 第一部 夏季部会で福島市で講演会、現地視察
- 南海トラフ巨大地震・津波対策
 - 「防災推進国民会議」に参加。
 - 第三部 高知で夏季部会 講演会開催。
- 国際展開の新委員会(設置予定)、国内連携の新委員会(設置済)で日本学術会議としての活動強化。

3. 科学研究の健全性、科学者の倫理

- 日本学術会議の一連の活動等もあり、現在は健全な科学研究の重要性の定着、研究者による学習プログラム実施の段階
 - CITIテキスト 理工系などを含め、webベースで学習教材、達成度チェック。
 - JSPS版(日本学術会議も協力)の完成・普及が待たれる。
- 防衛省や米国防総省等の競争的資金による研究公募に対する考え方等、これまで日本学術会議が議論を集約してこなかった問題への対応が求められた。(災害救助支援ロボット、安全保障技術推進制度等)

4. 政府・産業界・メディア・市民団体等との連携

- 日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議の報告書を受けて、経団連との懇談会開催
 - 経団連会長による運営費交付金に対する理解
 - 同、人文社会科学に関する文部科学大臣通知への批判的見解
- 今後、メディアとの懇談会を予定

6. 報告書「日本学術会議の今後の展望について」を受けて、諸改革を進める。

1. 日本学術会議の活動のあり方

- (1) 政府や社会に対する提言機能の強化・・・要望、提言、報告、声明、談話など
- (2) 学協会などとの連携・・・人文社会科学系学協会、防災関連などとの連携
- (3) 地域に根ざした活動・・・地区会議との連携強化。地区の会員・連携会員
- (4) 広報・社会とのコミュニケーション活動
- (5) 世界の中のアカデミー・・・国際的なカデミー活動強化、Future Earthなど国際社会をリードする活動強化、国際発進力強化、多言語による発信力

2. 日本学術会議の組織としての在り方

- (1) 会員・連携会員の在り方・・・社会的使命の浸透、自発性尊重
- (2) 会員選考・・・若手アカデミーの充実、地域バランス、外国人の活動の機会
- (3) 組織形態・・・国会へも報告済
- (4) 所在地・・・利便性の高い所在地として現在地が最適

7. 国際活動の推進

- Gサイエンス2015・ドイツ
 - 感染症と抗菌剤耐性: その脅威と対策
 - 顧みられない熱帯病
 - 海洋の未来: 人間の活動が海洋システムに及ぼす影響
- SCA 国際シンポジウム・シエムリアップ(カンボジア)
- Future Earth 国際事務局、SC・GC・ECに関わる
- Gサイエンス2016・日本
 - 2016年2月に開催
- 2国間の活動
 - CASTと交流協定
 - 在日仏大使館とシンポジウム開催
 - イスラエル、ドイツ等の表敬

次の半年に取り組む課題

1. 科学技術政策の方向・転換期における学術の拠点としての大学・国立大学のあり方
2. 防災・減災 東京会議・仙台会議を経て、学術の観点から防災・減災に積極的に取り組む
東日本大震災からの復興への取組
3. 国際活動の推進(Gサイエンス、FE、国際会議)
4. 科学研究の健全性、科学者の倫理
5. 会員選考 新・分野横断的領域、地区活動を支える、若手アカデミー
6. 報告書「日本学術会議の今後の展望について」を受けて、諸改革を進める

報	3
総 会	1 7 0

副会長活動報告



第23期 日本学術会議副会長
向井 千秋

科学者委員会の活動状況

- 協力学術研究団体指定の審査を実施。
(26年10月～27年7月、団体34件、7月末現在)
- 協力学術研究団体の実態調査の実施方針を承認。
- 平成27年度の地区会議の運営に関し、所要の事項を決定。(実施計画、講演会の決定等)
- 男女共同参画分科会の親委員会として、提言「科学者コミュニティにおける女性の参画を拡大する方策」を査読、承認。
- その他、各種シンポジウムの開催や後援を承認。

(i) 日本学術会議協力学術研究団体の指定

- 日本学術会議協力学術研究団体指定への新規申請に対する審査を実施。
- 平成27年4月以降、26団体を協力学術研究団体として認め、これまでと合わせて1,998団体（平成27年7月末現在）に。
- 協力学術研究団体の質の向上と日本学術会議との一層の連携強化、協力学術研究団体制度の適正な運用を図るための基礎データを得ることを目的として、公益財団法人日本学術協力財団及び国立研究開発法人科学技術振興機構とともに、協力学術研究団体実態調査を継続的に実施予定。

(ii) 地区会議との連携

- 地区会議は、地域の科学者との意思疎通を図るとともに、地域社会の学術の振興に寄与することを目的として、全国を7ブロックに分けて活動。
- 平成27年4月～平成27年9月に、札幌市、富山市、高知市、福岡市の各都市において学術講演会や地域科学者との懇談会を開催。
- 地区会議ニュースを発行。

(iii) その他の活動の状況①

➤ 広報関係

- 広報・科学力増進分科会では、日本学術会議の広報活動について審議。
- 広報活動に関し、パンフレット作成や日本学術会議の学術情報誌である「学術の動向」への編集協力を実施。「学術の動向」の編集において、内容の充実を図るべく企画を提案・審議し、誌面に反映。

(iii) その他の活動の状況②

➤ 男女共同参画関係

- 男女共同参画分科会では、科学に関する男女共同参画の推進に関することを議論。
- 現在、内閣府男女共同参画局において策定過程にある「第4次男女共同参画基本計画」(2015年12月策定予定)を念頭に、提言「科学者コミュニティにおける女性の参画を拡大する方策」を策定し、本年8月、内閣府男女共同参画局長に手交。

(iii) その他の活動の状況③

➤ 学術の大型研究計画検討関係

- 学術の大型研究計画検討分科会では、関係省庁等と意見交換を行うとともに、会員及び前回「学術大型研究計画」の応募者に対してアンケート調査を行い、その結果を踏まえつつ、今会期における「学術大型研究計画」の公募・策定プロセスの方針について審議。

(iii) その他の活動の状況④

➤ その他

- 組織運営等検討分科会は、設置以降活動実績がなく、今期においても、対応すべき案件が見当たらず、活発な活動が見込めないことから、科学者委員会運営要綱(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)を改正し、廃止。

今後の活動予定

- 協力学術研究団体の実態調査を実施予定。
- 協力学術研究団体は、総計1,998団体(連合体も含む、7月末現在)となり、今後も逐次実施する予定。
- 科学者委員会の在り方について、検討を継続。

報	4
総 会	170

副会長報告

科学と社会委員会および課題別委員会の 活動状況に関する報告

平成27年4月～平成27年9月の活動



「政府・社会・国民との関係」担当副会長
井野瀬久美恵
平成27年10月1日

政府・社会・国民との関係の基本方針



報告書「日本学術会議の今後の展望について」を踏まえた対応を視野に、日本学術会議が「わが国の科学者の内外に対する代表機関として、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させる」ために、従来の活動を継承するとともに、政府・社会・国民との連携を一層、強化する。

提言・助言
機能の強化

社会・国民と
の連携強化

政府との
連携強化

科学と社会委員会(一部組織整理)



科学の知の普及のためのアウトリーチ活動関連

- * 科学力増進分科会
⇒ 科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会として再編
- * 「知の航海」分科会
- * ~~政府・社会及び国民等との連携強化分科会~~ ⇒ 廃止

年次報告書作成関連

- * 年次報告(等)検討分科会 ※名称等変更

提言等の意思の表出関連

- * 課題別審議検討分科会
- * 課題別審議等査読分科会

幹事会附置委員会



移転検討委員会

外部評価対応委員会

課題別委員会 ※設置当初から「課題別委員会」のもの

オープンサイエンスの取組に関する検討委員会

高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会

幹事会附置委員会 ⇒「課題別委員会」に変更



科学研究における健全性の向上に関する検討委員会

科学者に関する国際人権問題委員会

東日本大震災復興支援委員会

東日本大震災に係る学術調査検討委員会

原子力利用の将来像についての検討委員会

大学教育の分野別質保証委員会

フューチャー・アースの推進に関する委員会

学術の観点から科学技術基本計画のあり方を考える委員会

学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会

防災減災・災害復興に関する学術連携委員会

平成27年4～9月に発出した提言・報告 (幹事会附置委員会・課題別委員会)



＊ 提言「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言―国民的合意形成に向けた暫定保管」(平成27年4月28日、高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会(今田高俊委員長))

＊ 提言「科学者コミュニティにおける女性の参画を拡大する方策」(平成27年8月6日、科学者委員会男女共同参画分科会(井野瀬久美恵委員長))

大学教育の分野別質保証委員会



* 報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準:社会福祉学分野」

(平成27年6月19日、社会学委員会社会福祉学の参照基準検討分科会(白澤政和委員長))

* 報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準:電気電子工学分野」

(平成27年7月29日、電気電子工学委員会電気電子工学分野の参照基準検討分科会(保立和夫委員長))

提言等の提出時の最終確認チェックシートの導入・改訂

キーワード導入を検討

⇒関連ある課題のどの部分をさらに深めるのか？それはなぜか？

＋学術会議全体を俯瞰的に眺める

＋専門/部を超える課題を新たに抽出する

⇒学術会議のこだわりはどこにあるのか？

提言等の提出チェックシート

このチェックシートは、日本学術会議において提言の作成(調査・調査・調査、以下「調査等」という)の書類を円滑に行い、調査等(調)の作成書、調査書、調査書等の質を最終的に確認するためのものです。

調査等(調)の作成者は調査の際に以下の項目をチェックし、調査等(調)に添えて提出時に提出してください。

項目	確認事項	チェック
1. 調査	調査と内容は一致している。	1. はい 2. いいえ
2. 調査内容	どのような調査があり、何が問題であるのか十分に記述されている。	1. はい 2. いいえ
3. 調査方法	調査に際しては、調査等への調査に向けて、具体的な調査等の計画を記述しているか(例: 文献調査、調査書等)。	1. はい 2. いいえ
4. 調査結果	本文は20ページ以内、アウトラインは40ページ以内である。必要事項を記述。	1. はい 2. いいえ
5. 調査結果	専門的だけでなく、社会問題である内容であり、文書としてよくまとまっている。	1. はい 2. いいえ
6. 調査	調査は、調査のみでも調査した文書としてまとめるものであり20ページ以内、アウトラインは40ページ以内である。	1. はい 2. いいえ
7. エビデンス	調査・分析を裏付けるデータ、図表、調査結果をすべて掲載した。	1. はい 2. いいえ
8. 調査結果	いわゆる「なぜ」(因果関係)で説明を行うこと(例: 調査内容をめぐる因果関係は明らか、適切な因果関係を示した)。	1. はい 2. いいえ
9. 調査の調査等との関係	日本学術会議の調査との関係調査等を記述し、調査結果を記述している。	1. はい 2. いいえ
10. 調査結果	調査結果と調査結果を記述することの必要性を記述している。	1. はい 2. いいえ
11. 調査結果の調査結果	調査結果・調査結果の調査結果と調査結果を記述している。	1. はい 2. いいえ

調査等(調)で「はい」を記入した場合は、その調査結果が記述されていることを確認してください。

記入者(調査等・調査等) _____

備考: 日本学術会議ホームページ「調査等の円滑な実施のために」(2014年11月)参照。
<http://www.sci.go.jp/sci/cond/pdf/140530.pdf>

特筆すべき出来事:

6.8文部科学大臣通知に対する幹事会声明 (平成27年7月23日)とその後の対応

- * 公開シンポジウム「人文・社会科学と大学のゆくえ」
(平成27年7月31日、第一部主催)
- * 9月幹事会での文部科学省・常盤高等教育局長との
意見交換(平成27年9月18日)
- * 国際科学会議(ICSU)の「科学者の人権と研究健全
性に関する委員会(CFRS)」(井野瀬副会長出席)でも
議論予定(平成27年10月2日)

提言の質的向上＋査読体制の強化
＋各部・各専門別委員会を超えて、
学術会議全体として取り組むべき課題を抽出、
深化させる



⇒学術会議の発信力強化・届けたいところに
メッセージを届けるタイミングと手法の模索
⇒政府・社会・国民との連携強化
学術におけるリーダーシップ
政府の政策に反映
社会・国民の参照軸

報	5
総 会	170

日本学術会議 国際活動報告



第170回総会 2015年10月1日
第23期 国際担当副会長 花木 啓祐

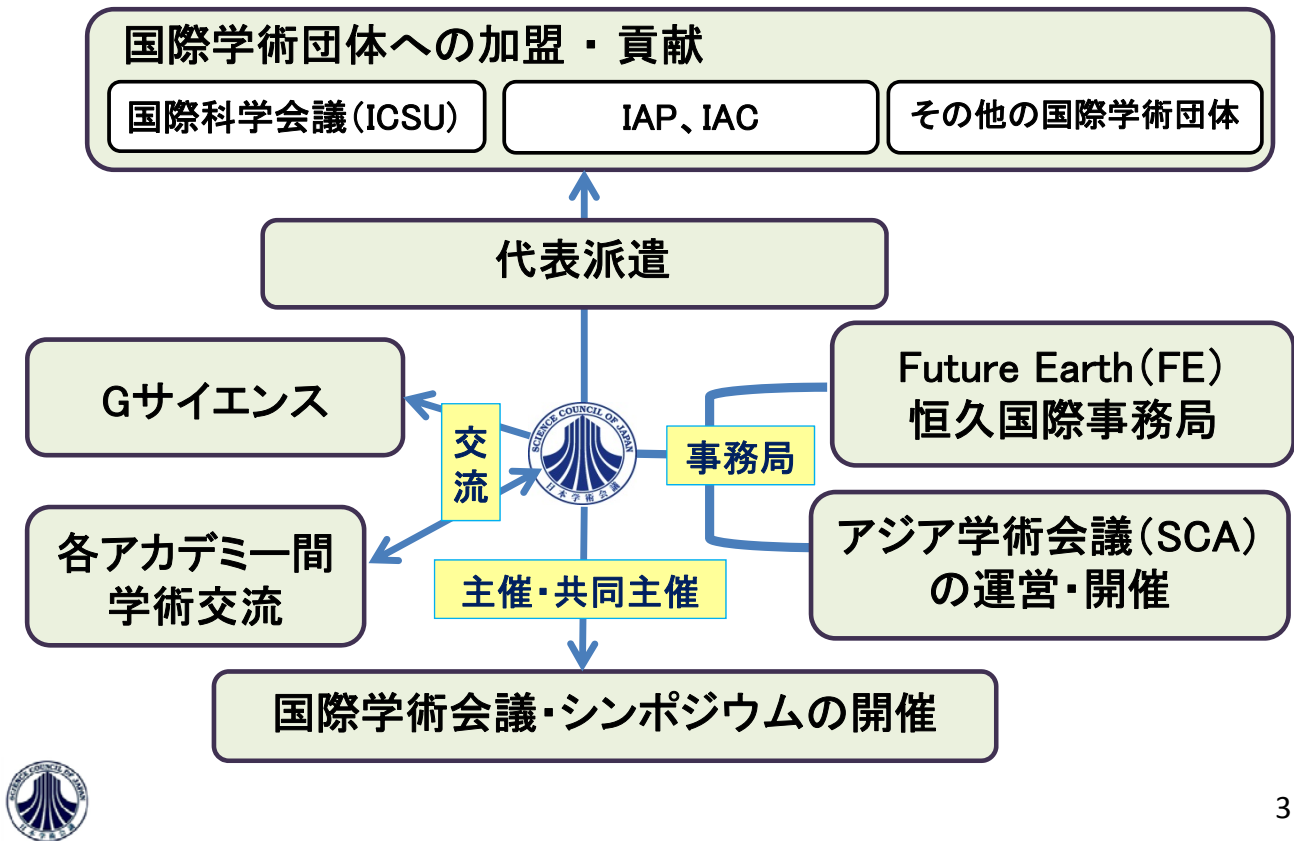


第23期の活動方針

- 個別分野の学術交流を基盤としつつ、
分野横断的な国際活動の展開
 - 全学術分野を擁する日本学術会議の優位性
- 世界全体としての課題解決に向けた
国際学術団体との協働
 - 国際学術団体における貢献、Future Earth
- アジア地域におけるリーダーシップの発揮
 - アジア学術会議



国際活動の全体像



①国際学術団体等への貢献 (1)

- ICSU (国際科学会議) への参画
 - 科学プログラムへの参加
 - Future Earth (安成哲三連携会員)
 - Disaster Risk Reduction (竹内邦良連携会員)
 - Urban Health and Wellbeing (花木啓祐会員)
 - 運営への参画
 - 理事 (巽 和行連携会員)
 - 科学計画・評価委員会委員 (春日文子連携会員 (更新))
 - 科学研究における自由と責任に関する委員会 (井野瀬 久美恵会員)
 - アジア太平洋地域委員会委員 (山形俊男連携会員)

①国際学術団体等への貢献(2)

- IAPへの参画
 - 執行委員会委員として運営への参画
- IACへの参画
 - 理事として運営への参画
- IAP/IAC/IAMP合同理事会(2015年9月@インド)
- 組織統合
 - IAP/IAC/IAMPが統合し、新生IAP (InterAcademy Partnership) が2016年に発足



①国際学術団体等への貢献(3)

- 世界科学フォーラム (World Science Forum)
 - 企画委員会への参画(2015年6月)
 - 2015年11月にブダペストでフォーラム開催
 - 防災に関わるセッションを企画
- 各学術分野における交流
 - 代表派遣、共同主催などを通じて支援



② 各国アカデミーとの連携・交流(1)

・ Gサイエンス学術会議(2015)

– ドイツ科学アカデミーで開催された会議に専門家2名と副会長が参加(2015年2月)

- (1)感染症と抗菌剤耐性
- (2)顧みられない熱帯病
- (3)海洋の未来

についての共同声明作成



– G7対話フォーラムに副会長が参加・メルケル首相に声明を手交(2015年4月、ベルリン)

– 安倍総理に声明を手交(2015年5月)



7

② 各国アカデミーとの連携・交流(2)

・ Gサイエンス学術会議(2016)の企画

– スケジュール

2016年2月に日本で開催

2016年5月伊勢志摩サミットに反映

– テーマ

第1部～第3部からの意見を踏まえて分科会で検討

政府とも意見交換

・ 中国科学技術協会(CAST)との学術協力

– 覚書締結(2015年9月)



③ アジア学術会議の運営・開催

- 吉野 博会員が事務局長
- 2015年5月 シェムリアップ
(カンボジア)で第15回会議開催
 - “Science and Technology for Culture”
 - 16か国・地域から170名以上が参加
- 次回は2016年5～6月にスリランカで開催予定



9

④ 国際学術会議の共同主催並びに後援 共同主催国際会議を開催

- ・北極科学サミット週間(2015年4月23日～30日)
- ・第12回アジア栄養学会議(同5月14日～18日)
- ・第7回国際新興・再興豚病学会(同6月21日～24日)
- ・国際第四紀学連合第19回大会(同7月27日～8月2日)
- ・第17回世界経済史会議(同8月3日～7日)
- ・第9回国際中欧・東欧研究協議会世界大会(同8月3日～8日)
- ・クォークマター2015: 第25回相対論的原子核衝突国際会議
(同9月27日～10月3日)



国際第四紀学連合第19回大会



⑤代表派遣の実施

国際委員会において討議

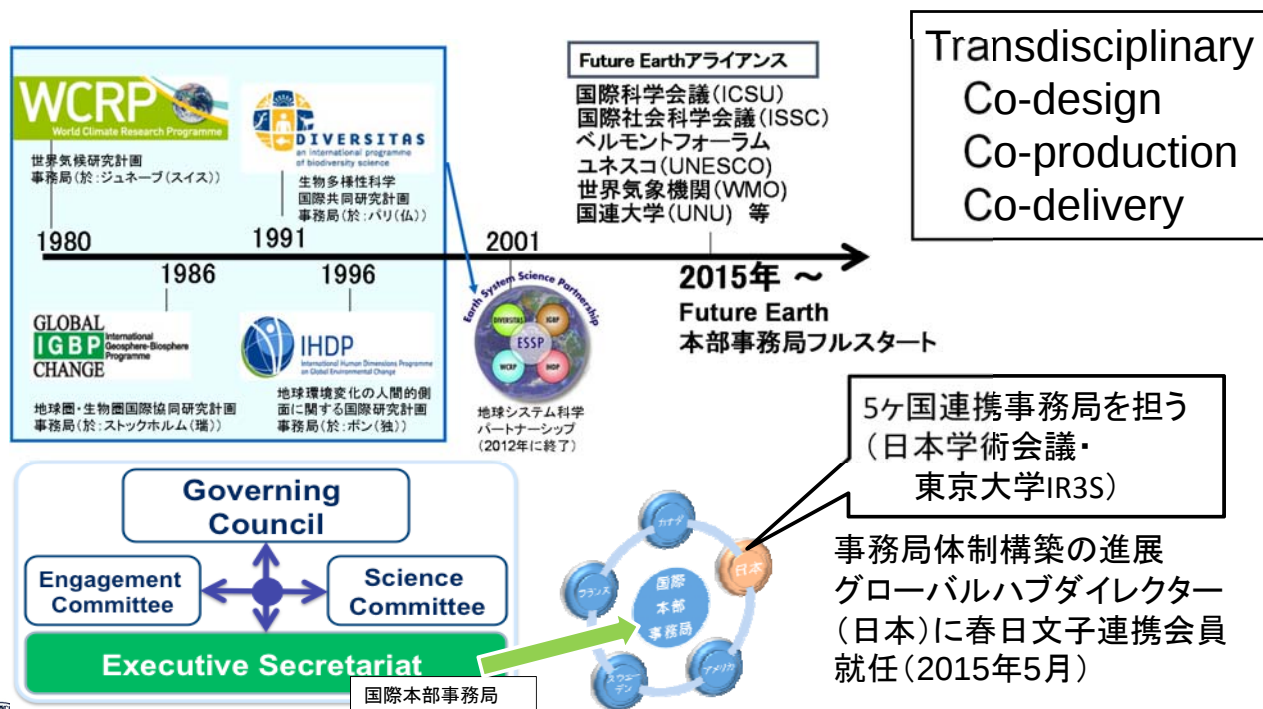
- 平成27年度の代表派遣43件、延べ50人（追加分含む）を実施中
- 若手アカデミー会員の派遣
 - 2015年5月にカナダで行われるGYA総会へ、若手アカデミー委員会メンバー2名を派遣
 - 同年6月マレーシアで行われたSTSフォーラムワークショップに1名を派遣



11

⑥フューチャー・アースの推進と国際事務局運営(1)

「フューチャー・アースの推進に関する委員会」



30

12

⑥フューチャー・アースの推進と国際事務局運営(2)

- 2015年4月 本部事務局会合(モントリオール)
- 2015年6月 ウィーンにてGoverning Council, Engagement Committee, Science Committeeの合同会議開催
- 2015年11月には日本においてGC/EC/SC会議を開催すると共に種々の会議を企画
 - 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議
 - サイエンスアゴラ
 - アジア地域ハブ(京都・地球研)主催シンポ



13

⑦その他の国際活動

- 日仏スマートシティシンポジウム
2015年9月15-16日
フランス大使館と共催



- 日独シンポジウム
ダイバーシティが作る卓越性
2015年9月4日
国際交流基金・ベルリン日独センターと共催



14

第16回アジア学術会議(SCA)

スリランカ会合論文募集

○開催期間: 2016年5月30日(月)～6月1日(水)

○開催場所: コロンボ(スリランカ)

○主催: National Academy of Sciences of Sri Lanka(NASSL),
National Science Foundation of Sri Lanka(NSF), 日本学術会議(
Science Council of Japan (SCJ))

○テーマ: Science for the People: Mobilizing New Technologies
for the Sustainable Development in Asia

○サブテーマ:

- Opportunities in mobilizing Information technology,
Biotechnology and Nanotechnology for National Development
- Social Dimensions: Challenges faced by Asia, Risks from
technologies

(論文要旨提出期限: 2016年1月10日)

